

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

23

定価690円(税込)

2010/7/13



Mechanic Sheet

第12使徒レリエル

Character Sheet

ペンペン

Tactics Sheet

サードチルドレン
サルベージ作業

Installation Sheet

第3新東京市

Timeline Sheet

初号機、覚醒

Technology Sheet

使徒

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



EVANGELION

CHRONICLE

23

Mechanic Sheet メカニックシート

第12使徒レリエル

01-04

Character Sheet キャラクターシート

ペンペン

05-06

Tactics Sheet タクティクスシート

サードチルドレンサルベージ作業

11-12

Timeline Sheet タイムラインシート

初号機、覚醒

13-16

Technology Sheet テクノロジーシート

使徒

17-20

Installation Sheet インストールシート

第3新東京市 C

21-24

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典

25-26

企画書

07-10

トピックス

27-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで!

PCサイト

▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト▶ <http://wpp.jp/eva/>

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

▶ <http://www.evastore.jp/>



ココからGO!

[発行日] 2010年7月13日

[発行] 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン

〒104-0045

東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル

[発行人] 小河原和世

[編集人] クロス中山慶子

[チーフエディター] 安部 翠

[印刷] 大日本印刷株式会社

©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.

[編集協力] 株式会社ウィーブ (石川裕人/田代 豪/大久保圭/本多らな)

[監修] 株式会社ガイナックス

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>

[編集協力] 有限会社 メガロマニア (富田英樹/高村泰稔/渡邊洋三/

加藤和弘/山田展寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹)

[執筆] TRAP (西川紗矢/遠藤智子)/ぼろり春草

[イラスト] 市川裕文/深野洋一 (M.I.C.)/森下直親/射尾卓弥

[デザイン] ローカル・サポート・デパートメント (島田英明/角田正明)

株式会社 インフォビジョン (河野幹哉/安川純史/田中治彦)

<新訂版>

[編集協力] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (伊藤桃香/米良真一)

[デザイン] スタジオ・ハードデラックス株式会社 (松本優典)

●書店向け注文受付センター

(書店様からのご注文を承ります)

TEL 03-5212-5311

(月~金 9:30~17:30 土日祝日を除く)

FAX 03-5212-5312

●読者サービスセンター

(本誌関連の一般的な質問を承ります)

TEL 0570-008-109

(月~金 10:00~18:00 土日祝日を除く)

※本商品は2007年に刊行された『エヴァンゲリオン・クロニクル』(発売:ソニー・マガジズ)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受付センターに電話またはFAXで

TEL 0120-300-851

(9:00~21:00 年中無休)

FAX 0120-834-353

(定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)

2. インターネットで

<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)

※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送

(『定期購読のお知らせ』がお手元にない場合は受付センターまでご連絡ください。)

特製バイナダー 本誌第24号と同時発売

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル新訂版』は特製バイナダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠なバイナダー2・3巻の2冊セットを、通常価格1,790円(税込)で7月6日(火)に本誌第24号と同時発売いたします。お近くの書店でお求めください。

※4巻目のバイナダーは第31号でプレゼントいたします。



下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報の取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等を行うことはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の取崩、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳密に管理いたします。 4. 個人情報提供の任意性 個人情報提供を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手続きがとれない場合もあります。(購入に関するお問い合わせは定期購読受付センター: 0120-300-851へ) 5. 個人情報に関する開示請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパンCRM部長 電話番号: 03-5309-8286 *受付時間 10:00-18:00 (土日祝日、弊社休日を除く) *弊社ウェブサイトでも個人情報保護の詳細をご案内しております。 <http://deagostini.jp/security/>

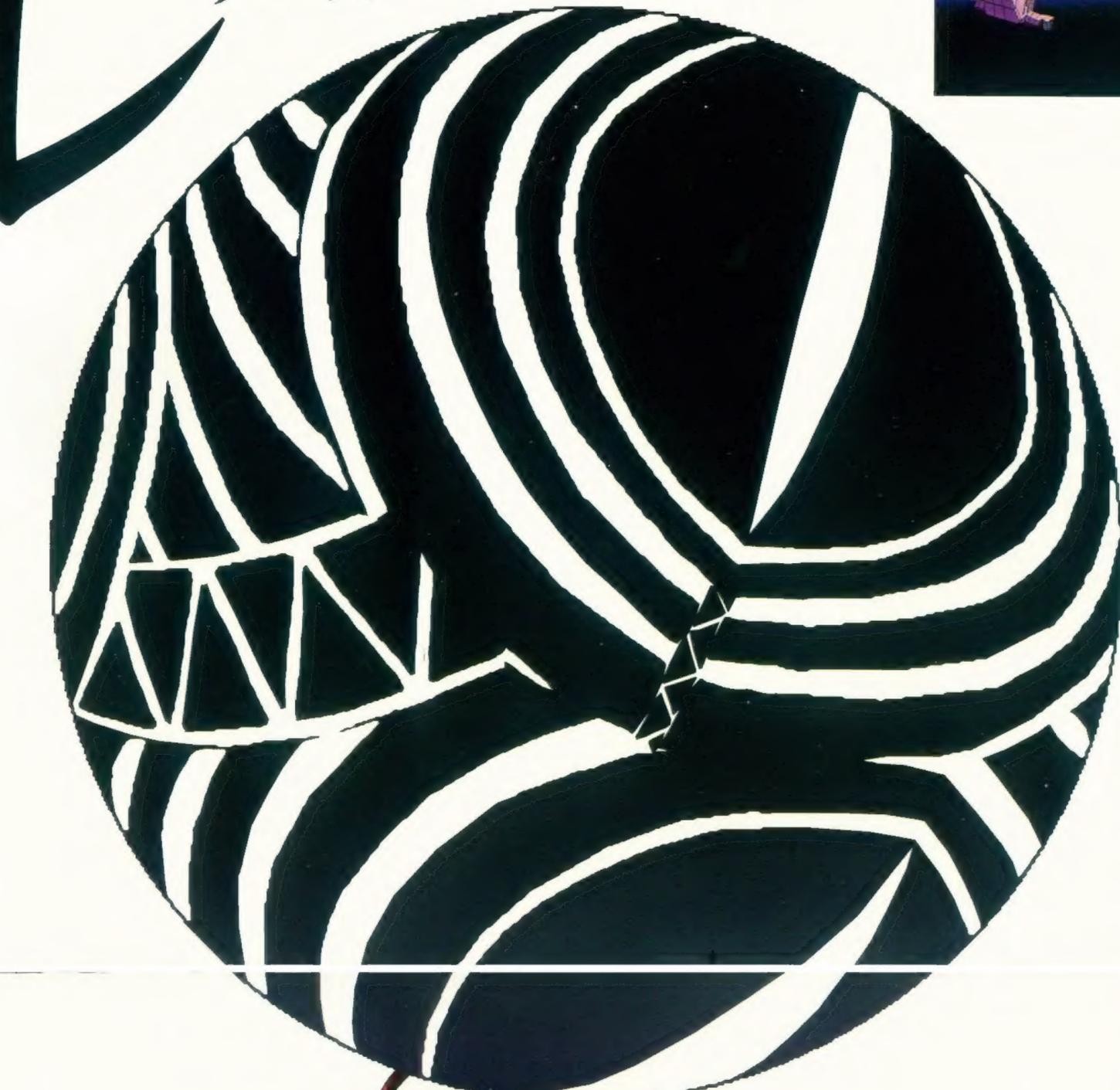


第12使徒

リエル



体内に別空間を持つ異質な使徒



UNKNOWN

LELIEL TWELFTH ANGEL

A.T.フィールドを別空間の形成に用いた使徒

ヒトの知り得るテクノロジーの尺度では測れない存在が使徒であろう。その中でもレリエルの特殊性は異彩を放つ。A.T.フィールドを単純な防御や攻撃に使うのではなく、虚数空間という別の宇宙の形成に用いたほか、形成した空間にて、取り込んだEVA及びその操縦者であるヒトと初めて接触を図ったと見られる。これは機械的な行動を取っていた使徒がヒトに興味(といえるか定かではないが)を持ち、知恵を身に付けはじめた証だと考えられる。

第3新東京市に出現したレリエル。攻撃を仕掛けたEVA初号機を自己の虚数空間へと取り込み、ほぼ半日のあいだ同地点に留まり続ける。その後、暴走した初号機が同使徒内から脱出する際に内側から破壊され、結果的に殲滅された。

ユダヤ教の伝承では、レリエルは別名ライラエルとも呼ばれ、語源の“ライル”はヘブライ語で“夜”を意味しており、出産や新生児を守護する存在とされる。本体である漆黒の影は夜の闇のようであり、初号機が球体を引き裂いて脱出するさまは、まるで子宮から誕生したかのようにも見えよう。

富士の電波観測所などNERVの警戒網ではレリエルを捉えることはできず、突如として第3新東京市上空に現れた。その際MAGIはパターン・オレンジと判じている。



初号機がレリエルの影である球体に対して攻撃を仕掛けた直後、同機直下に出現して体内の虚数空間へと飲み込んでいく。この瞬間、MAGIはパターン・青と認識した。

暴走した初号機により、体内から虚数回路を無理矢理こじ開けられて脱出されたレリエル。その衝撃で木っ端みじんの肉塊となり活動を停止、殲滅されるに至る。



DATA

呼称：12th ANGEL

第12使徒

天使名：LELIEL

レリエル

象徴：SYMBOL

夜

能力：ABILITY

虚数空間の形成

本体の虚数回路が閉じれば消えてしまう。

上空の物体こそ影

に過ぎないわ

(赤木リツコ)



影

SHADOW



本体

SUBSTANCE

関連事項

- 強制サルベージ作戦
- ディラックの海
- 使徒



レリエルに取り込まれた初号機の救出作戦。ただし機体の回収が最優先であり、操縦者の生死は問わないものであった。

レリエルの体構造

白と黒の縞模様の球体は、オブ・アート(幾何学的な図形配置や色彩による錯視効果を用いた抽象絵画)のような目立つ外見を持つ。これは本体のいわゆる“影”のようなもので、視覚や各種センサー類を欺き本体を悟らせないための、一種の擬態かもしれない。



MAGIは当初パターン・オレンジを示して使徒との断定を保留。その後、初号機を取り込むためレリエルが虚数回路を開いた際に改めてパターン・青、使徒と断定した。

A.T.フィールドで形成する虚数空間

上空の球体が影であり、黒い影に見えるものが使徒本体。直径680m厚さ3nm(ナノメートル)の極薄の平面状物体こそが本体で、内部は内向きのA.T.フィールドによって支えられ、ディラックの海と呼ばれる虚数空間が広がる。別宇宙を生み出すほどのエネルギーを供給するS機関の驚異もさることながら、この檻から脱出した初号機の底知れなさは特筆に値するだろう。それはEVA2体がかかりで行なおうとした虚数回路への干渉と、n²爆雷992個分の爆発エネルギーの集中によって可能な虚数空間の破壊を、同機は単独で成し遂げたという事実である。



本体は染み入るように広がり、虚数回路を開くことで体内のディラックの海と繋げ対象を取り込む。その内部にはソナーやレーダー波も反射しないほど広大な空間がある。

EVAの取り込みとコンタクト

初号機を体内に取り込んだレリエルは、NERV本部を目指すでもなく目立った動きを見せなかった。このことから、同使徒の優先目的がEVA及び操縦者であるヒトへのコンタクトにあったと推測でき、第3~11使徒とは一線を画す存在といえよう。



虚数空間内において、初号機の操縦者は自己との対話という心的事象を体験している。これはある種の使徒の接触なのかもしれない。

使徒からの初コンタクトは、操縦者本人にその記憶はなく、EVAのACレコーダーも作動していないことから実証はされなかった。



初号機によって内側から破壊されたレリエルの残骸



レリエルの影

レリエルの本体

レリエルの活動記録

第3新東京市上空に突如として出現したレリエル。EVA3機が迎撃のために接近し、先走った初号機の攻撃を影である球体に受ける。その瞬間、同機の直下に回り込んで虚数回路を開き、体内のディラックの海に初号機を取り込むことに成功。その後、都市の一部をも取り込んだあと再び虚数回路を閉じて静観する。

一方NERVは、撤退し難を逃れた2機のEVAと、n²爆雷による初号機サルベージ作戦を計画していた。

初号機を取り込んでから約16時間後。同機を生命維持機能が切れた瞬間、暴走した初号機によって内側から破壊され、その脱出と共に殲滅されてしまう。



影である球体を本体と思いついた初号機の操縦者。彼の慢心が引き起こした独断先行により、レリエルは容易く同機を虚数空間に取り込むことができた。



球状の影を引き裂き、虚数空間から脱出した初号機。本体と影は一種のワームホールのような関係で、虚数空間の入口は本体側、出口は影側とも考えられる。

レリエル侵攻記録

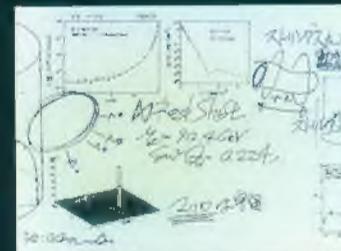
- 突如出現
- 第3新東京市直上に
- 初号機と交戦、虚数空間に取り込む
- 活動停止
- 暴走した初号機に内側から破壊される
- レリエル殲滅



特記事項

米国第2支部の消失事故

EVA4号機へのS機関搭載実験の過程で発生したと予測される米国第2支部の消失。これは爆発ではなく消失で、レリエルの形成したディラックの海と同様の虚数空間に飲み込まれたものと赤木リツコ博士は推測している。被害規模は甚大で、EVA4号機及び半径89km以内の関連研究施設と数千の人間が消失した。EVAだけでなくS機関というオーバーテクノロジーはヒトの手に余るものでありながら、それを持つ使徒と対峙するため、犠牲を払ってでも研究が成されている。



レリエルの構造概念の説明にある「ストリングス」という単語から、万物の要素は粒子ではなく紐とする超紐理論が虚数空間に関係していると考えられる。

静止衛星が捉えた米国第2支部消失の瞬間。その原因は材質の強度不足から設計初期段階のミスなど、最低でも32,768通りの原因が考えられるという。



高い知能を持つ 愛くるしい 同居人



民間



ペンペン

PEN²

故あって葛城ミサトに引き取られた新種の温泉ペンギン。ペンペンと名づけられた温泉ペンギンは非常に知能が高く、同居人らの言葉を理解していた節も見受けられた。基本的には、あくまで本能の赴くままに生きる愛玩動物であったペンペン。ただ、時には同居人の心情を思いやるような表情を見せるなど、人間味すら感じられる行動をとることもあった。使徒との戦いの渦中に身を置く同居人たちにとって、貴重な存在であったことは間違いない。ちなみにペンペンは、実験動物として処分される間際、ミサトに引き取られたとも言われている。その真偽は定かではないが、ペンペンが特にミサトの心の機微を感じ取ることに長けていたのは、深い絆を感じていたことの証左といえるだろう。



葛城家の住人であるペンペン。その愛くるしい容姿はミサトだけでなく、同居人となったシンジとアスカにとっても癒しの存在となっていたようだ。飼育は専用の冷蔵庫(寝床)が必要になるなど容易とはいえないが、知能が非常に高く、他の愛玩動物と比べて遥かに世話がしやすかったものと思われる。なおペンペンは、第16使徒戦にて第3新東京市が壊滅状態に陥った際、疎開する洞木家に預けられた。ひとり暮らしが長かったであろうミサトにとって、それは家族との別れに等しいものだったに違いない。



新聞を抱え、テレビ欄に目を通すペンペン。文字の判別が可能という、知能の高さを表す事例のひとつだ。ただし、テレビ欄以外も読んでいるかは定かではない。

ペンペンを抱き「しばらくお別れね」というミサト。ペンペンは返事をするように鳴き、ミサトを見つめた。ふたりのあいだには明らかな意思の疎通が見て取れる。



追加報告

温泉ペンギンの生態について

温泉ペンギンは正統な進化を遂げたペンギン類ではなく、人工的に生み出された亜種と考えられている。実際に生み出した人物、組織は明らかになっていないため、その生態の全容を知ることは難しい。ただ、寝床として気温の低い場所を好むこと、風呂や温泉を好むこと、そして人語をある程度は理解する高い知能を有していることのみは判明している。ペンギンには、赤道直下のカラバゴス諸島にガラバゴスペンギンが生息しているように、寒冷地でなくても生きられる種もいる。温泉ペンギンにはそういった種の特徴が組み込まれているのかもしれないが、「温水を好む」という嗜好の起源については全くの謎である。



クール便で送られてきた直後にもかかわらず、気持ちよさそうに泳ぎまわるペンペン。その名に違わず、温泉には目がないようだ。



葛城家にはペンペン専用の冷蔵庫(寝床)が用意されている。ちなみに仰向けで寝るのも、温泉ペンギンの大きな特徴のひとつである。

関連事項

- 葛城ミサト
- 碓シンジ
- 惣流・アスカ・ラングレー
- 洞木ヒカリ



NERV戦術作戦部作戦局第一課の課長を務める女性。碓シンジと惣流・アスカ・ラングレーの保護者的な役割も担っている。

全身/表情



↑ 体長は50~60cmほどで、通常時は直立二足歩行をするペンペン。なお、フィンと呼ばれる翼の先に鋭い爪も持っているのも大きな特徴のひとつだ。



3号機の操縦者が誰であるかを、シンジに告げられないミサト。そんな彼女を心配そうに見つめるペンペン。他者の心情を慮るような表情を浮かべることも多い。



↑↑ マカロニペンギン属に見られる目の上の羽毛と、胸につけたネームプレートが特徴的。なお「BX293A」というナンバーは個体識別番号と思われる。



↓ ほぼ直立の姿勢で二足歩行するその姿は、普通のペンギンと比べて大きな差異はない。なお、常にランドセルを背負っているが、その機能は不明である。

↓ 驚いたときには前傾姿勢をとって疾走することも。また、ほとんど見られないものの、腹部を使って滑るといったペンギンらしい行動をとることもあるようだ。

ドルフィンキックを使い、水中を高速で移動する使徒。



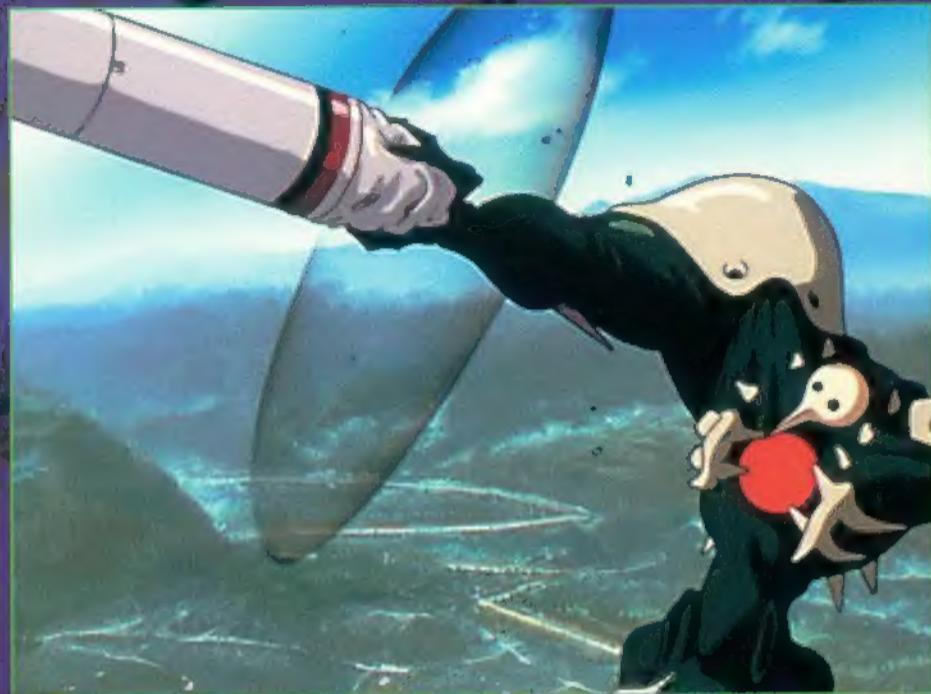
使徒 サキエル (水の天使)

陸海両用の、人型戦闘兵器。

水間を漂い、近づく敵は変形自在の両腕で切り裂く。
その威力は、エヴァの装甲を軽く貫いてしまう。
劇中では、専用空母にて太平洋上を移動中のエヴァ弐号機に襲いかかる。

KEYWORD

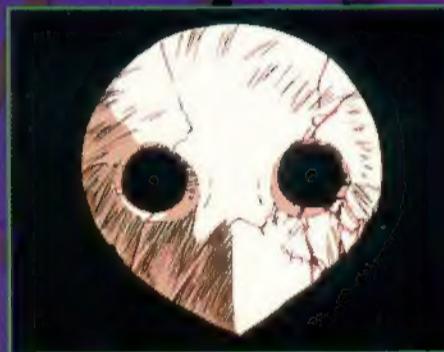
使徒サキエル(水の天使)



第壹話での、巡航ミサイルを片手で受けとめるサキエル。使徒そのものの強大なパワーを象徴するシーンである。一見、企画書に描かれたサキエルと大きくデザインが異なるが、ボディラインや脚よりも長い腕、むき出しの“アバラ”のようなパーツなど、共通する要素も散見できる。



第壹話の冒頭より、水中を移動するサキエル。サキエルの名は、「水を司る天使」の意味を持つが、作品中においてサキエルが水中戦を行なう描写はないため、本編でのサキエルには“水”のイメージは薄い。また、水中を進むシーンでも、企画書に記述のあるドルフィンキック泳法も披露することなく終わっている。



OPにも登場するサキエルの“顔”のような部分。能面のようなデザインは、使徒全体のイメージを表すシンボルとしても見られる。

企画書には数体の使徒が掲載されている。とくに本編で第壹話に登場したサキエルについては詳細に紹介されており、この使徒こそが“敵”の基本的なデザインイメージとして考えられていたものであろう。ただし、使徒はデザイン的な統一性をあまり持っておらず、各々特殊な形状をしていた。それでもゼルエルなど、サキエルとデザイン的に系統を類する使徒も登場している。

KEYWORD

変幻自在の両腕

企画書では、サキエルの武器は“変幻自在の両腕”と記載されている。それだけに企画書に掲載されたイラストのサキエルは、鋭角に盛り上がった肩から伸びる巨大な腕、そして長い鋭利なツメを持った、いかにも腕部を武器としているデザインであった。しかし、本編では、腕部から突出する“光の槍”と眼らしき部位から発射される“怪光線”へと変更されている。企画書に記述された腕部を変形させて敵を切り裂く攻撃は、シャムシエルやゼルエルへと受け継がれたようだ。



第貳話より、初陣の初号機と戦うサキエルの姿。パイロットが不慣れた初号機に対して、一方的な攻撃を繰り返し続ける。腕部から放たれる光の槍は、企画書にある「エヴァの装甲も軽く貫いてしまう」という腕による切り裂き攻撃の威力を踏襲してか、初号機の頭部を撃ち抜いた。



第参話登場の使徒、シャムシエル。肩ないし腕に相当する部位より伸びた光の触手は、“変幻自在の両腕”といえるであろう。



第拾九話登場の使徒、ゼルエル。シャムシエルとは異なる形の“変幻自在の腕”で、式号機の両腕と頭部を斬り落とした。

KEYWORD

エヴァ式号機に襲いかかる



第八話登場の第6使徒ガギエル。原子力空母とほぼ同サイズの巨大な使徒である。だが、企画書では洋上を輸送中の式号機と戦うのは“サキエル”の名を持つ使徒であった。仮にサキエルが企画書通り第八話登場であったなら、逆に第壹話では、どのような使徒の出現を想定していたか気になるところだ。



ガギエルのボディ上部。本編中ではほんの一瞬しか映らないカットであるが、そのボディにはサキエルと同デザインの“顔”らしき部分がある。



第6使徒ガギエル戦。ガギエルは式号機の初陣の相手として、重量感、そしてスピード感あふれる戦闘を太平洋上で繰り広げた。

サキエルの記述においてポイントとなるのが、企画書におけるシリーズ構成表の第8話——式号機との水中戦が見せ場となるエピソード——での登場を予定していた点にある。つまり第3使徒サキエルこそが式号機の初陣となる旧伊東沖での海中戦を演じるよう考えられていたのであり、それゆえ「水を司る天使」の名を冠されていたのである。しかし、本編では、より“海”というシチュエーションに即した「魚を司る天使」=ガギエルへと変更されている。

高空を舞う、使徒 アラエル (鳥の天使)



空中戦用の、鳥型戦闘兵器

半透明の12枚の翼をひろげ、宙を自在に移動する。
最大の武器は、翼端の高周波ソード。
陸戦兵器であるエヴァは、大苦戦を強いられることになる。

使徒 シャテイエル (沈黙の天使)

光エネルギーが団体の形まで凝縮された
光学戦闘兵器

回転するクリスタル状の防弾板が
あらゆる磁力・電磁波を吸収し
エネルギーへと変換する。
体内に蓄積されたエネルギーは
磁力線・電磁波・電気・熱量と
自在に姿を変え、敵に放出される。



使徒 トウレル (神岩の天使)

どこまでも敵を追い詰め自爆する、大型自動爆弾
外界からのいかなる攻撃を跳ね返し、狙われたものに確実な死をもたらす
ゆっくりと飛来する姿は、第3新東京市を恐怖と絶望に陥れる

エクストラシート
Extra Sheet

KEYWORD

高空を舞う、使徒アラエル(鳥の天使)

本編で第10話最終盤の第貳拾式話に登場した第15使徒アラエル(鳥の天使)は大気圏内で高空を雄々しく飛翔している姿であり、大気圏外に浮遊している本編中のイメージとは異なるものである。さらにも企画書第10話構成表(上)の第10話におけるEVAの空中戦の相手となるのがこのアラエルであったように、もともと企画書では「半透明の2枚の翼」など本編では明瞭ではなかった設定の記述があることも見逃せない。



アラエルの精神攻撃を受ける式号機。企画書におけるアラエルの姿、翼の展開方法などを武器とするとされているが、本編では精神攻撃のみで物理攻撃は行っていない。



アラエルを倒すために、式号機の機を投擲する身振りと翼は企画書において、度々描かれていたイラストが確認できる。



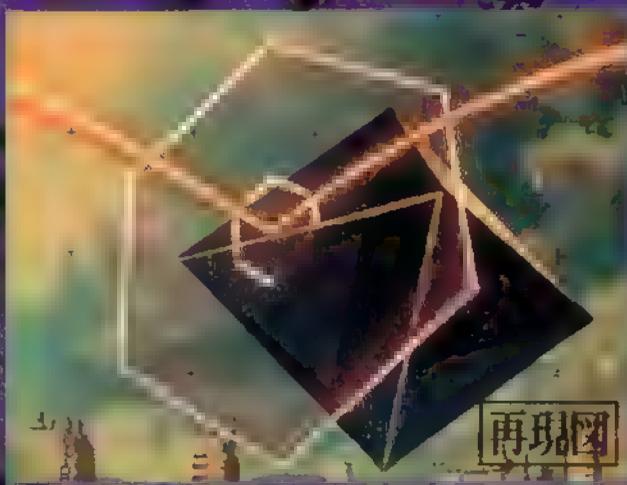
本編では、大気圏外に出現した2体目の使徒であるアラエルの全身。その全身が翼状で、そのディテールは不明瞭とされている。企画書に掲載されている使徒は、機体そのものの特徴を持っている傾向がある。特に企画書において、使徒は「戦闘兵器」として扱われ、生物を連想させる文言は使われていない。

使徒シャティエル(沈黙の天使)



高機動性を備えたタイプの使徒であり、その機体は「シャティエルの本体ではなく、使徒の“影”であった」とされている。

企画書で紹介されているが本編に未登場に終わった使徒が、このシャティエルである。「光エネルギーの形で凝縮された」使徒の中でも相当な戦闘力を有すると思われるような設定が目を見くろむ。機体的には多面体構造のような複雑なものである。このような複雑な構造を持つ使徒は第5使徒ラミエル、第12使徒レミエルなどが登場。いずれも空中に浮遊してEVAに攻撃を仕掛けたが、おそらくシャティエルもこのタイプであったと思われる。



シャティエルのボディは強力なエネルギーを凝縮した状態であり、シャティエルと重複する要素も多いラミエル。企画書でシャティエルの特徴として挙げられている反射バリアによる防御も受け継がれている。



シャティエルのボディは強力なエネルギーを凝縮した状態であり、シャティエルと重複する要素も多いラミエル。企画書でシャティエルの特徴として挙げられている反射バリアによる防御も受け継がれている。

KEYWORD

使徒トゥレル(神岩の天使)



トゥレルと同一の攻撃方法をとる本編のサハクィエルだが、形状はまったく異なっている。



第拾貳話より、サハクィエルの攻撃により地表にできたクレーター。その攻撃方法は爆撃と聞いてよいだろう。

本編のサハクィエルは、最終的にはボディ全体を質量爆弾と化してNERV本部めがけ高速で降下。この自爆狙いの攻撃は、企画書に記載されるトゥレルの特徴そのものである。



「大型自動爆弾」と形容される使徒トゥレルは、「神岩の天使」と謳われているわけだが、よく古代の神像を喚起させるデザインである。「降下」と飛来する姿は、第3新東京市を恐怖と破壊に陥れる」という記述から、企画書第10話構成表(上)の第12話に登場予定だったと思われる。トゥレル自体は本編未登場であるが、本編第拾貳話にこの使徒の特徴を受け継いだと思われる第10使徒サハクィエルが登場。NERV本部に爆弾兵器として接近し、



第14使徒との戦闘により大破し、装甲板の代わりにテーピングを施された初号機の前に立つ赤木リツコ博士とスタッフ。初号機のエントリープラグ内の状態を分析した結果、初号機パイロットであるサードチルドレンの肉体は量子レベルに分解したものの、“魂”そのものは失われていないと判断。かくしてサードチルドレンのサルベージ計画が立案されることとなった。

サードチルドレンサルベージ作業

シンクロ率400%の代償 失われたサードチルドレンの救出

第2次ジオフロント攻防戦において、初号機は第14使徒ゼルエルを殲滅。さらに使徒のS²機関を取り込むという予想外の結末で戦闘は終わった。しかし、勝利の代償は大きく、初号機パイロットであるサードチルドレンはL.C.L.と同化、その肉体を失ってしまう。この異常事態に対し、NERVはサードチルドレンのサルベージ計画を立案。約1ヶ月におよぶEVAとの“戦い”へと突入することとなる。

赤木リツコ博士の分析によれば、サードチルドレンの肉体は自我境界線を失って量子状態のままL.C.L.内に漂っているとされ、プラグ内のL.C.L.は化学変化を起して原始地球における生命のスープに似た成分素性となっていると考察された。これは第14使徒ゼルエル戦において、サードチルドレンがマークした初号機とのシンクロ率400%というレコードの正体でもあった。また、サードチルドレンの

肉体は“消失”したものの、“魂”と呼べる存在は厳然と残っていると推論。これらの状況を踏まえ、赤木博士はサードチルドレンのサルベージ計画を遂行していくこととなる。

サルベージ計画には、約1ヶ月の準備期間を要した。計画の困難さを鑑みれば異例の早さであったが、これは10年前のE計画初期段階に発生した何らかの実験中の事故(今回同様、被験者の精神と肉体がEVAに取り込まれた)時に作成された救出プランを基礎としたためであった。また、第3使徒以来、断続的に出現してきた使徒がこの期間はまったく姿を現さなかったことも、作業を円滑に推移させたといえる。そして、過去の事例では、失敗に終わったサルベージ計画だが、今回はNERVの誇るMAGIシステムのサポートもあり、理論上救出は可能と判断。かくして第14使徒戦から31日後、計画は決行された。しかし、いざ作業を開始すると、干渉シグナルを自我境界パルスへ流し込んだ途端、外部からのアクセスを拒否するかのように、プラグ側

からデストロイ反応が発生してしまう。これに対し赤木博士は計画の中断を指示するも、時すでに遅くエントリープラグは強制排出。サードチルドレンが溶け込んでいるはずのL.C.L.が流出——これはサードチルドレンが永遠に失われたに等しい惨事であった。が、呆然とするスタッフを他所に突如としてサードチルドレンは初号機胸部のコア部分周辺に出現する。計画自体は成功と言い難いものの、結果論ながらサルベージは成功したのだ。現時点において、サードチルドレン生還の決定的な要因は謎とされている。ただし赤木博士の作成したサルベージ計画が何らかの形で、プラス方向に作用した結果であると推測できよう

RELATED MATTER

- EP2式サルベージ作業
- サードチルドレン
- EVA初号機
- 赤木リツコ
- MAGIシステム



赤木リツコ博士によって立案されたサルベージ計画書類上の正式名称は「EP2式サルベージ作業」であった。

タクティクスシート
actics Sheet

サードチルドレンサルベージ作業
ALVAGE OPERATION FOR THIRD CHILDREN

サードチルドレン 消失事件の10日

L.C.L.に融解した肉体を再構成、魂をそこに定着させる極めて成功率の低い難作業こそ、サルベージ計画の全容である。計画は約1ヶ月をかけて入念に進められ、実行へと移された

サードチルドレンの消失が発覚したのは、使徒殲滅後に初号機が回収されてからであった。シンクロ率400%がもたらした、EVA初号機とパイロットの融合。その詳細な分析には2日を要し、サルベージ作業の計画立案から決行まではさらに約27日をかけて準備が進められ、ついにサルベージ作業は決行される。しかし、いざ作業を開始すると、エントリープラグ側から拒絶反応が発生。エントリープラグは強制排出され、入念な計画は水泡に帰したかに思えた。が、初号機コア側からサードチルドレンが出現、対象者は無事生還を果たす。サードチルドレン消失から31日後の出来事であった。



シンクロ率400%という異常数値を示した初号機は驚異的なバフを発揮し、使徒を圧倒した。だがこの時点でプラグ内部におけるパイロットの肉体は、L.C.L.に融解していたと思われる

回収された初号機はケインに拘束。プラグ排出のため予備信号・疑似信号・直轄回路からのアプローチ等を用いるも受け付けず。その機体は補完委員会の別命あるまで凍結とされた



サルベージ計画決行までの経過

1日目 第14使徒ゼルエル戦の爪痕

第14使徒との戦いで、初号機は肩部から腕部、胸部、頭部と上半身のはほぼすべての装甲を失った状態であったが、エントリープラグは無傷であった。だが、映像回路が繋がらぬプラグ内の様子が映し出され、そこでパイロット消失の事実が発覚する。この異常事態にも冷静な赤木リツコ博士に対し、葛城三佐は激昂し口論になったと言われている。



初号機エントリープラグ内にはパイロットの姿はなく、着用していなかったはずのプラグスーツだけが漂っていた

3日目 サルベージ計画の発動

分析結果からパイロットはサルベージ可能と判断され、計画の準備が開始された。ゼルエル戦で破壊された第1発令所に代わり、MAGIの予備システムを運び込んだ第2発令所が稼働。計画のサポート体制が整う一方、この時点で初号機のエントリープラグは本体から挿入位置まで引き出され、内部モニタリングのための探査装置も取り付けられている



ケインに拘束された初号機を前に、赤木博士と伊吹マヤは、葛城三佐に初号機のプラグ内の分析と考察を説明する

30日目 サルベージ作業手順要綱の完成

計画のための要綱「EP2式サルベージ作業手順要綱(含、LP3式補完手順)」が赤木リツコ博士の手により完成した。これは、10年前にE計画の初期段階で発生した碇ユイ消失事件において、赤木博士の母親である赤木ナオコ博士が作成した救出計画要綱(この時は失敗している)とレポートを基礎とし、本計画用にアレンジしたものであった。



赤木博士の尽力により起案からわずか1ヶ月弱で、初号機パイロットのサルベージ計画の手順要綱が作成された。

31日目 サルベージ計画の決行

接続作業のステージ1は問題なく完了し、本作業であるステージ2へ移行。だが、干渉信号は無限ループ空間(クライン空間)に捕らえられ、肉体復元プロセスには予らず危険な状態に陥る。さらにプラグ射出コートが起動。初号機本体の電源を切断し信号を停止させようとするも間に合わず、計画は失敗と思われたが、パイロットは予想外の生還を果たす



ついに決行されたサルベージ計画。パイロットの自我境界バルスに外部から干渉して、肉体の再構成を試みるというものであった

作戦報告

サルベージ計画の成功

初号機の再機動の取り返しが人類補完委員会にとって想定外の出来事であった。これを受け初号機は委員会の別命あるまで凍結とされたが、取り返されたパイロットの救出計画は滞りなく進行されている。この事実からも、初号機とパイロットは委員会にとっても重要な存在であったと考えられ、人命尊重以上の最優先事項であったことは想像に難くない。そして、結果論ながらサルベージ自体は成功したため、NERV、および人類補完委員会が機体を内蔵したEVAを、貴重な連絡船を失うことなく手に入れることとなる。なおサルベージ作業終了後、初号機の機体修復は4日ほどで完了し、機体の凍結はしばらく解除されずともよい。



赤木博士が作成したサルベージ計画だが、元来自体は失敗する可能性が非常に高く、葛城三佐は簡単に放棄される



新機軸として期待されて居るべきサードチルドレンの初号機だが、第14使徒戦までは機体修復の状況が暗い

追加報告

サードチルドレンの31日

初号機に取り込まれたサードチルドレン——碇シンジは、物理的には約1ヶ月の間、自我境界が崩壊し可塑性物質化して、実体としての肉体を失った状態であった。しかし、外部からのモニタリングでは、自我意識は残っていたことが計測されている。つまり身体はなくても魂や心は残っていたと考えられ、サードチルドレンの深層意識は活動し続けていたとするのが妥当であろう。碇にはL.C.L.内に溶解していたサードチルドレンの意識は“夢”という形で思考——想像心や自身の存在環境への葛藤など——を繰り返し、そこから生み出されたと思われる心理的なイメージを知識していたとも言われている。このときの精神状態がサルベージ計画時のアテンションへと繋がりを、またサードチルドレンの生還作戦一環であったとも考えられよう。



プラグ内に於、結果時に着用していなかったプラグスーツが漂っていた。これはパイロットの“魂”が割りだしたイメージの具現化と考えられる



碇の心内に溶解していたサードチルドレンは、その間も様々な“夢”を知識し、葛藤していたとされる。“夢”には家族や友人、知人などを想像していたようである

特記事項

10年前のサルベージ計画

サードチルドレンのサルベージ計画よりさかのぼることを10年前、E計画の実験中、ひとりの被験者がEVAの中に消えた。当時の開発担当責任者であった赤木ナオコ博士はサルベージ計画を立案、被験者の救出を試みたものの失敗している。このときの事故はEVAと人間との何らかの実験時に発生したもので、被験者の碇ユイはE計画の主要人物のひとりであり、サードチルドレンである碇シンジの実母であった。また、計画を進めた赤木ナオコ博士は赤木リツコ博士の母であり、密しくも親子2代でサルベージ計画に関わったことになる。さらに追記すれば、碇ユイが消失したEVAこそ初号機そのものであったことも見逃せない事実であろう。



10年前の碇ユイとEVAの実験。成功すれば人類の大きさを1歩を踏み出す日となるはずであったこの実験には、まだ幼いサードチルドレンも立ち会っていた。

碇ユイ

生物工学の権威。セカンダリバグ以前から優れたレポートを作成、その才能を買われ、E計画に参加した。自らEVAとの実験に臨むが失敗。文字通り消滅した。サードチルドレンの母であり、碇シンジの母である。



新世紀年表

NEO EVANGELION
CHRONOLOGY

初号機、覚醒

AWAKENING

A.D.2015

●ジオフロント

01

第14使徒、NERV本部施設に侵入

ある決意を胸にシンジが走りはじめたころ、ついに使徒の攻撃はNERV本部に到達していた。使徒の身体から放たれた光が、本部外壁に激しい大爆発を引き起こす。「第3基部に直撃!」「最終装甲板、融解!」。その報告にミサトは顔色を変える。「まずい、メインシャフトが丸見えだわ!」メインシャフトは本部の最深部、ターミナルドグマまで続いている縦穴であり、このままでは一気に本部の中核まで攻め込まれてしまう。だが頼みの綱の初号機は相変わらず、ダミープラグを拒否し続けていた。



君にしかできないことがある
加持の言葉に何かを感じ
たか走り出すシンジ



ジオフロントの地表にぽっかりと大穴が開いた。ここから本部中核までは一直線だ。「初号機はまだなの?」。さすがのリツコも焦った声を出すか、モーターは赤く点滅するばかりで、初号機はダミープラグを受け入れない

A.D.2015

01

初号機、第14使徒と交戦

使徒がビームを浴びせようとした刹那、壁を破って何かが見えた。初号機である。不意打ちを受けてぐらりと揺らぐ使徒。「EVA初号機……シンジくん!?」。その様子を呆然と見ていたミサトは、驚きの声をあげた。誰が初号機を操縦しているかに気づいたのだ。そうこうするうちに初号機は、使徒を力任せに発令所から押し出そうとする。壁が崩れ、初号機と使徒はケイジへとなだれ込んでいった。使徒がビームを放ち、初号機は左腕を吹き飛ばされるが、それでもなお、シンジは大声を上げながら使徒に組みつき続けた。



壁を破って出現した初号機は
かまわず使徒を殴りつけ、ミ
サトたちの危機を救った



ケイジへ追い込まれた使徒は殴りかかろうとする初号機に光線を放つ。その攻撃で初号機の左腕がふき飛び、体液が噴き出した。それは間近にいたケントウにもかかるとか、ケントウは微動だにせず、目の前の戦いを見つめていた。

2015年

使徒、
NERV本部施設に侵入

メインシャフトが露呈する

シンジ、
初号機パイロットに復帰

初号機、起動

使徒、第1発令所に侵入

●NERV本部

A.D.2015

03 初号機、発令所に飛び込む

打つ手のないままに皆か押し黙ってしまった矢先、シンジが初号機のあるケージに現れた。「なぜここにいる」。ゲンドウはあくまでも冷やかに問う。するとシンジは父にまっすぐ顔を向け、はっきりと答えた。「僕はエヴァンゲリオン初号機のパイロット、碇シンジです!!」。



自分をEVAに乗せてくれと、シンジは自分から訴える。

自分は初号機パイロットと叫ぶシンジ。機多の苦悩を乗り越えて彼はそう決意した。



05 第14使徒、第1発令所に侵入

発令所に侵入した使徒をミサトは睨みつける

その頃、使徒はメインシャフトへ侵入。セントラルドグマへ向けて下降を始めていた。「ここにくるわ! 総員退避、急いで!」。ミサトがそう叫んだ直後、メインモニターの表示が消えた。そして轟音と共に壁面が破られ、使徒が発令所に侵入したのだった。間近に迫る使徒を、ミサトはひとと睨み据えた。



敵がここへ来ると悟ったミサトは退避命令を出す。職員たちが避難するよりも先に使徒が現れた。



・式号機と零号機を瞬く間に沈黙させた第14使徒。その強さは圧倒的である。

メインシャフトへ入り込んだ使徒が、猛スピードで下降を始める。その先にはセントラルドグマが位置していた。



ゆっくりと司令塔に接近する使徒。その不気味な姿に、ミサトは父の形見の十字架を握り締める。

●NERV本部

05 初号機、活動限界を迎える

初号機は使徒をEVA射出用カタパルトの上へ押しやった。「ミサトさん!」。シンジの叫びからその意図に気づいたミサトが即座に指示を出す。「5番射出、急いで!」。その後、初号機と使徒は組み合ったまま、電磁カタパルトで射出され、ジオフロント地表に放り出されたのだった。



シンジの機転で、使徒は本部施設から放り出されることに。

猛スピードで上昇する間も、シンジは使徒をコントロールし続けてダメージを与え続けた。



A.D.2015

●ジオフロント

05 初号機、活動限界を迎える

電原切れにより、初号機の攻撃は中断してしまう

ジオフロントへ放り出された初号機は、使徒の顔をわし掴んだまま地面へと激しく打ち付けた。「うおおお!!」声にならない叫びをあげ、激しく使徒を攻撃するシンジ。さらに、初号機は使徒の頭面を引き剥がそうとしはじめる。初号機の猛攻についていけないのか、使徒はされるがままである。このままだければ初号機の勝利は確かであるように思えた。だがその時、不意に初号機の動きが止まった。内蔵電源が切れ、活動限界に達してしまったのだ。



本部から使徒を追い出した初号機は、矢継ぎ早に攻撃を加え続けた。

使徒の顔を力任せにねじ切ろうとする初号機。シンジは目をぎらつかせ、使徒を追い詰めるのだが――



初号機が不意に停止。いつの間にか活動限界に達していたことに気づき、シンジは愕然とする。



「初号機、活動限界です。予備も動きませぬ。マヤの叫びに職員たちも呆然となった。

初号機、第1発令所に飛び込む

初号機、使徒と交戦

ミサト、使徒と初号機をカタパルトでジオフロントに射出

初号機、使徒を圧倒

初号機、活動限界を迎える

A.D.2015

07 初号機のコアが
引き出しになる

動かなくなった初号機に攻撃を加える使徒。初号機の胸で爆発が花開いた。地表へ駆けつけてきたミサトたちは、装甲が剥離して剥き出しになった初号機の胸部を見て息を呑んだ。そこには、使徒の持つコアとそっくりな球状物体が埋め込まれていたのだ。



「場所が逆転した使徒か、初号機の胸に攻撃を集中する」

なぜ使徒と同じコアを初号機が有しているのか、ミサトは驚き、声も出ない。



08 シンジ、初号機を動かそうとする

シンジの叫びに、初号機に宿る何かか応えた

初号機のコアに対して使徒は執拗に攻撃を集中する。一方、シンジは必死にレバーを引いていた。「動け、動け、動け、動け!!」だがシステムは沈黙したままである。「いま動かなきゃ、いまやらなきゃ、みんな死んじゃうんだ! もうそんなの嫌なんだよ!! だから動いてよ!!」シンジの絶叫がプラグ内に響いた時、変化が起きた。とここで鼓動のような音が生じる。ピクリとも動こうとしない初号機のなかで何かが目覚めようとしていた



両腕を交互に伸ばしては初号機のコアへと叩き込む使徒、その衝撃がプラグにピヒを入れていく



「死に初号機を動かそうとするシンジ、無駄とはわかっていても彼は手を止められなかった」



鼓動のよつら音と共にシンジの眼、前、青く揺らく光が浮かぶ。初号機のなかで何かか反応していった

初号機、変化が起きていること、気づいたシンジ、彼の体を不思議な鼓動が包みこんでいく

A.D.2015

11 初号機、第14使徒を屠滅

腕を再生した初号機が咆哮する。そこへ再び使徒が腕を伸ばしてきた。攻撃に気づき、右腕を刀のように一閃させる初号機。その一振りには使徒の腕を切断しただけでなく、使徒の展開するA.T.フィールドと、さらに使徒の体までも簡単に切り裂いてしまった。



初号機が腕を閃かすと、使徒の体に亀裂が走った

体液をA.T.フィールドに飛び散らせて倒れる使徒。勝負はあっさりとした



12 初号機、S-機関を取り込む

使徒を喰らう初号機に誰もか凍りついてしまう

使徒を倒した初号機は獣のように四つんばいになり、使徒へ這うように近づいていった。そして、敵の体に覆いかぶさったかと思うと、大きく口を開け、その身体に食らいつきはじめた。骨がへし折られ、肉が喰いちぎられる不気味な音が、周囲に響いていく。



背中を丸め、不気味な姿勢で使徒へと這い寄っていく初号機、使徒は身動きも取れない



初号機を息を詰めて見守るミサトたち。使徒を見据えたEVAの眼が、獲物を目の前、したかのよつらに細まる



使徒に覆いかぶさった初号機は、大きな口でその身体を食いちぎり、咀嚼していった

凍りつききる光景、耐え切れなくなつたミサトは、口を押しさえ、涙を流してしまつた

2015年

使徒、初号機の胸部に攻撃を集中
剥き出しになる



使徒、初号機のコアに攻撃を集中



シンジ、初号機を動かそうとする



使徒の腕を使って失った左腕を再生する
使徒の腕を引きちぎる
初号機、再起動



●ジオフロント

10 初号機、シンク率が400%を突破する

「すごい。初号機の失われた腕が瞬く間に再生されていくのを見て、ミサトは眼を見張った。「まさか……信じられません。初号機のシンク率が400%を超えています！」。端末からモニターを続けていたマヤが動揺した声を出す。「やはり、目覚めたの？……彼女が」。リツコは食い入るように目の光景を見つめながら、そう呟いた。



初号機の体と使徒の腕が融合し、まるで人のような腕を再生成している。ミサトは呆然とするばかり。



E計画の責任者であるリツコは初号機に起きた異常の正体(甲)に当てるものがあるのか、謎めいた言葉を呟く。

使徒を引きつづけるや、その体と思ひ切り躍り上げる初号機。敵の衝撃で使徒の輪が壊れた。



再起動した初号機は、使徒の肉を切り裂き、再生してみせた。



09 初号機、再起動

再起動した初号機は、驚くべき攻撃力を発揮した

突然、初号機の眼に光が点った。起こりうるはずのない再起動が起こったのだ。息を吹き返した初号機は、攻撃を続ける使徒に対して無造作に右腕を突き出す。その手は、鋭い刃同様であったはずの使徒の腕を易々と切り裂いてしまった。さらに初号機は使徒を引き寄せ、その腕を引きち



再起動した初号機は使徒の攻撃を受け止め、逆にして腕を切り裂いた。



「T EVA再起動 状況の変化、立ち戻り人々の間、マヤの狼狽した声か流れる。加持もまたその戦を別の場所から眺めく。

●ジオフロント

11 NERV職員、覚醒した初号機に恐怖する

人の手を離れる初号機 その時ケントウは…

初号機が天を仰ぎ、周囲に高くような雄叫びを上げる。「私たちにはもう、EVAを止めることはできないわ……」。そんなリツコの声聞きながら、人々はたまたその場に立ちすくんでいた。一方、一部始終を見ていた加持も呟く。「初号機の覚醒と解放。ゼーレが黙っちゃいませんな。これもシナリオのうちですか？ 碓司令」。その頃、当のゲンドウは、冬月と共に執務室から初号機を見下ろしていた。「始まったな」。冬月が静かに言う。「……ああ。すべてはこれからだ」。ゲンドウは、咆哮を上げ続ける初号機を眺めながら、そう答えた。



S機関を取り込み、無限の活動時間を得た初号機が敵のよう、咆哮する。



恐るべき光景に震えるしかない職員たち。方々、加持はどきどきか皮肉気な笑みを浮かべ、ゲントウの真意を思案するのだ。



冬月とケントウは、初号機に起きた変化を捉え、あるか把握して、るかのよう、冷静だ。



すべし、これからは、ゲントウの視線の先には、雄叫びを上げ続ける初号機があった。

13 初号機、拘束具を排除する

ひとしきり使徒を喰らった初号機が立ち上がる。と、その身体が膨れ上がり、外装がはじけ飛んだ。「拘束具が……」「拘束具?」。リツコの呟きを聞きとがめる日向。「そうよ。あれは装甲板ではないの。EVA本来の力を、私たちが押さえ込むための拘束具なのよ」。初号機を見つめながら、リツコはEVAに秘められた驚くべき真実を語った



膨張する初号機の身体から弾け跳ぶ装甲。それら拘束具があると、リツコ、日向は不審な顔を向ける。

EVAの力を押さえるための拘束具「その呪縛が、いま目の力で解かれた」。リツコは、わは、顔で呟いた。



NERV職員、覚醒した初号機に恐怖する

初号機、拘束具を排除する

使徒に搭載されていたS機関を取り込む初号機、使徒を喰らう

初号機、使徒を殲滅

初号機、シンク率が400%を突破する

使徒

ANGEL

多大な経済的、社会的影響力を有していた秘密結社ゼーレ。彼らはその影響力と信念を礎として自らの教義と理念を証明するに足る事柄を探し求め、ついに古文書「真死海文書」を入手する。その古文書をもとに愚直なまでにさまざまな研究、探索を繰り返す過程で、そこに書かれた予言が絶対的なものであると確信したゼーレ。ゆえに彼らは、荒唐無稽とも取れる「人類を脅かす存在」の出現をあらかじめ予見し得たのである。天使の名を冠する人類の敵。生物の概念を越えた謎の生命体。その固有波形パターン99.89%は、人間の遺伝子と同じであるとされているが、形態は明らかに人間と異なるものがほとんどであり、その能力は人智を超えたものであった。

使徒と呼称される存在は人間のような高度な知恵を持たない代わりに、永久機関ともいべき動力源=S²(スーパーソレノイド)機関、さらにA.T.フィールド(Absolute Terror Field)と呼ばれる強固な不可侵領域を有していた。ゼーレ(実質的には真死海文書)により2015年の使徒襲来は予見されていたため、人類は使徒に対抗し得る戦力として、汎用人類決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンを作り上げる時間を得た。ただ、第17使徒までの襲来を予見していたゼーレですら、その具体的な能力までは知り得なかったことだろう。

なお、使徒と呼ばれる生命の源とされるアダムと、人類の始源と考えられているリリスは、共に地球に出現した「始祖」といえる存在である。それぞれがいつかして発生したかは知る由もなく、「真死海文書」にすらその伝承が書き記されていたか定かではない。また、この相容れないふたつの種が同時に存在した事のために、人類と使徒の争いが生まれたことは紛れもない事実である。ふたつの種が同時に存在したことは、何者かの意図によるものであったかもしれないし、あるいは何者かですら予期できぬ事故であったかもしれない。しかし、その真相は何者か「神」とも呼べる存在のみが知るところといえるだろう。

RELATED MATTERS

- EVA
- 真死海文書
- セカンドインパクト



ゼーレは、世界各地を職務とする国連直属の特務機関。第3新東京市に本部が置かれている他、各国に支部が存在する。

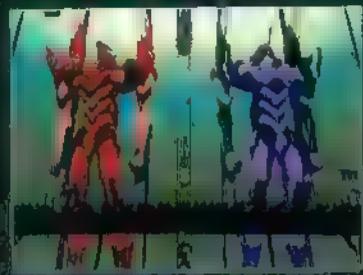


使徒という未知の生物
個体の基本能力

基本能力と特徴

2015年に襲来した第3使徒から第17使徒まで、人類は計15体の使徒と相対することとなった。彼らは個体ごとに異なる形態、能力を持っていたが、その根幹となる大きな特徴は、すべての使徒に共通するものである。まずあげべき特徴は、彼らが持つS機関である。この機関が動力源であるため使徒は無尽蔵に活動可能であり、驚異的な再生能力を持つ。また、周囲に展開されるA.T.フィールドと呼ばれる強固な不可侵領域の存在も、注目すべき基本能力である。この2点のみをとって見ても、使徒という存在の脅威をうかがい知ることができるだろう。

強力なA.T.フィールドを有する使徒。攻撃時は、EVAのA.T.フィールドにより、使徒のA.T.フィールドを中和できる距離まで接近する必要があった。



強力なA.T.フィールドを有する使徒。攻撃時は、EVAのA.T.フィールドにより、使徒のA.T.フィールドを中和できる距離まで接近する必要があった。

使徒の目的とそれらの目指すもの

主な能力と行動傾向

桁外れの基本能力以外にも、使徒は個体ごとにさまざまな能力を有していた。さらに、新たな個体が発見するたびに強力な能力や、それまでの使徒とは異なる攻撃法を用いてきたとされている。

なお、個体ごとの形態や能力は違えど、ほぼすべての使徒は、基本的にNERV本部に幽閉されていたアダムのもとを目指していたとされている。第1使徒とされているアダムは使徒と呼称される生命を生み出した始祖ともいえる存在であり、襲来する使徒は、おしなべてその始祖との接触、あるいは奪還を目指していたものと考えられる。ちなみにアダムと使徒が接触するとサードインパクトが発生するとも言われていた。ただ、最後の使徒である第17使徒を殲滅した時点で、人類がサードインパクトの発生を危惧する必要はなくなった。

使徒の中にはアダムとの接触、アダムの奪還ではなく、NERV本部ごとアダムを破壊するかのような攻撃を加える個体も存在した。



アダムとの接触に成功したかに見えた第17使徒。しかし、彼が接触したものの正体は、アダムとは対極をなす存在であるリリスだった。

基本的な使徒の構造

使徒と呼ばれている存在は未知の生物であり、その存在自体が人智を超えたものと言っても過言ではない。ただ、基本的には心臓部に相当する「コア」を持つほか、構造に共通する

点も多い。特に人型を中心とする固定の姿を持つタイプは、「頭部」や「武器」、個体ごとの「特殊機構」といった判別しやすい特徴を持っていた。



- ① **頭部**
使徒の中には頭部のように見える部位を持つものもあり、人型に近い形態の使徒は、ここから光線を射出するケースが多い。ただ、ここが実際に「頭」と呼べる部位かは定かではない。
- ② **コア**
使徒の心臓部ともされる部位。使徒は、このコアを破壊することで活動停止、もしくは消滅する。外見上は球状の赤い結晶体だが、それを構成する物質、実質的な役割は解明されていない。
- ③ **武器**
第3使徒が持つ槍のような武器を始め、使徒が持つ武器は個体によってさまざまである。特定の武器が確認できない使徒もいたが、そのほとんどは特定の形態を持たない使徒だった。
- ④ **特殊機構**
第3使徒が持つエラのような機構を始め、ほとんどの使徒は特殊な機構を持っていた。なかには衛星軌道に出現した使徒もあり、人智を超えた機構を有していたと考えられる。



第4使徒殲滅時、初めて原型をとどめたコアが入手された。

形態のバリエーション

2015年、最初に現れた第3使徒は人型に近い形態をしていた。ただ、以降は魚類、鳥類に近い形態の使徒や、さらに、あえて分類するならば「不定形」と言わざるを得ない使徒も確認された。なお、特に後期に出現した個体に、特徴的な形態を持つものが多かったようだ。



最も多かったのは、第3使徒をはじめとする人型に近い形態。最後の使徒である第17使徒に至っては、完全な人型といえる形態を持っていた。

攻撃手段のバリエーション

最も多い攻撃手段は特殊な形状の手、腕などを駆使した格闘である。だが、そのほかにも加粒子砲などの飛び道具、強力な溶解液、エネルギー波を使用した心理攻撃などさまざまな攻撃手段が確認されている。このように、個体によっては物理面だけでなく精神面への攻撃手段も持つ。



細菌状の第11使徒、非常に特殊な形状を持つ第12使徒、EVA3号機に寄生した第13使徒など、中には使徒自体の攻撃手段が不明な（あるいは手段がない）ものもいた。

出現場所の相違

使徒の出現が確認された場所は、陸地、海、火口、衛星軌道上と個体によってさまざま。基本的にその姿は侵襲中に捉えられるため、出現地点は判明していない場合がほとんどだ。ただ、人型は陸地、魚類に近いものならば海など、各個体の形態にあわせて場所に出現する特徴があるようだ。

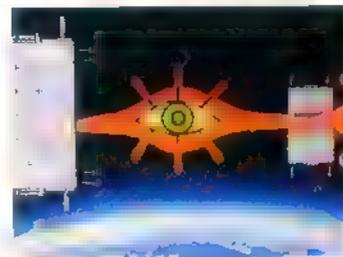


まさに神出鬼没といえる使徒。その出現の瞬間を捉えるのは極めて難しく、唯一の例外は浅間山火口内にて成体前の形態で発見された第8使徒のみである。

追加報告

襲来に際しての特徴

突如出現する使徒は他の個体と連携を試みることはなく、単体でNERV本部目指して侵襲してくるという特徴を持っていた。その理由は定かではないが、彼らを迎え撃つ人類にとりては幸いな特徴であり、NERVは戦力EVAを分散することなく使徒に対抗することができた。なお、15体の使徒のうち結果的にNERV本部へと侵襲しなかった個体は、日伊東沖にて太平洋艦隊を急襲した第6使徒、浅間山火口内にて成体前の形態で発見された第8使徒のみである。



出現位置はほぼ予測できない使徒たち。第10使徒、第15使徒、至るは突如衛星軌道上に出現した。また、出現以降の行動は共通しており、基本的に、第3新東京市のNERV本部最深部、幽閉されているアダム後、リリスと判明を目指して侵襲。あるいはNERV本部自体の破壊を目指すといった特徴があった。

■ 個体ごとの形態と特徴

個体ごとにさまざまな特徴を持つ使徒。2015年以降に襲来した使徒は15体にもおよぶ。形態もさまざまであり、後に出現したもののほど特徴的な形態を有していた。また、外見上似通った形態を持つ使徒は攻撃手段もまた類似していたが、後に出現した個体ほど強力となる傾向があった。



不定形な使徒は外見からは弱みとされるコアの所在が掴めないため、戦闘では苦戦を強いられることとなった。



第10使徒
サハキエル

突如、衛星軌道に出現した巨大な使徒。形態は基本的に固定ではあるものの、自らの体の一部を質量爆弾として落下させ NERV本部を攻撃。最終的には本体ごと落下して、NERV本部の破壊を目論んだ初めてA.T.フィールドを防御ではなく攻撃に利用した使徒でもあった。



形態 固定
攻撃 自体の落下



第3使徒
サキエル

セカンドインパクトより15年を経て、第3新東京市を襲撃した。人型に近い形態で、顔のような部位も持っていた使徒。掌部より槍のようなものを射出して攻撃し、機能増幅後は眼窩より光線を放つようになった。なお、弱点ともいえるコアは、ほぼむき出しの状態であった。



形態 固定(人型)
攻撃 槍闘ほか



第11使徒
イロウル

顔面サイズで、初めてその形態が特定できない使徒でもあった。その本体自体に攻撃能力はないものの、NERV本部内に侵入した後にMAGシステムをハッキングしてメルキオールとバルタザールを掌握、本部の自律自爆を提議させた。唯一、EVAの攻撃以外で殲滅された使徒でもある。



形態 不定形
攻撃 不明



第4使徒
シャムシエル

目玉模様の擬態を有する頭部と紡錘形に近い胴体を持つ使徒。前肢の先端部より展開される光の触手を用いて攻撃する。さらに、移動速度は速くないものの、飛行能力も有していた。第3使徒と同様にコアはほぼむき出しの状態となっていた。また、形態移行能力を持つ。



形態 固定
攻撃 槍闘ほか



第12使徒
レリエル

空中に浮かぶ球体状の“卵”を持ち、内向きのA.T.フィールドでまわられた影のような虚数空間を本体とする使徒。自発的な攻撃は行なわないが、実質的には虚数空間内に敵を取り込むことが攻撃となる。暴走したEVA初号機により殲滅されたが、コアの所在などは不明である。



形態 固定(本体は不定形)
攻撃 不明



第5使徒
ラミエル

正八面体の無機質な形態を持つ使徒。加粒子砲により一定範囲内に進入する敵を攻撃する。さらに肉眼で位相空間を確認できるほどのA.T.フィールドを、直下にある物体に対して穿孔を行なうフィールドを有している。また、移動速度は速くないものの、飛行能力も持ち合わせていた。



形態 固定
攻撃 加粒子砲ほか



第13使徒
バルディエル

EVA3号機の輸送中、積乱雲に着んで寄生したと考えられている使徒。粘菌状の物体が確認されたものの、その実際の形態は不明。また、実質的な攻撃方法はEVA3号機による格闘だが、本体の寄生以外の能力、また、コアの所在なども不明である。



形態 不定形
攻撃 不明



第6使徒
ガギエル

日伊東沖にて太平洋艦隊を急襲した魚類に近い形態を持ち、水中活動に特化した水棲型の使徒。長大な体躯ながら高速度で海原を移動する能力を有しており、体当たりや高速度が生み出す衝撃波を主な攻撃方法としていた。なお、弱点となるコアは口腔内に位置していた。



形態 固定
攻撃 槍闘ほか



第14使徒
ゼルエル

人型に近い形態を持つ使徒。伸縮自在の両腕と、第3使徒サキエルの2倍以上の威力を持つ光線が主な攻撃手段。また、A.T.フィールドに頼らない強固な体表面を持つコアに、防護機構をもつコアを有しており、それまでの人型に近い形態だった使徒と比べ、非常に防御面に優れていた。



形態 固定(人型)
攻撃 槍闘ほか



第7使徒
イスラフェル

比較的人型に近い形態をしていたが、瞬時に分離、合体する能力を有していた使徒。鉤爪のような手による攻撃のほか、顔のような部位からは光線を放つこともできた。なお、片方が傷ついても分裂したもう1体が無事であれば、合体後、瞬時に回復できるという能力も有していた。



形態 固定(人型、分離可)
攻撃 槍闘ほか



第15使徒
アラエル

突如、衛星軌道に出現した、鳥のような形態の使徒。物理的な攻撃手段は持たないが、エネルギー流での心理攻撃によりEVAの操縦者に精神的なダメージを与えた。衛星軌道に位置したため、通常の攻撃手段では到達すら困難で、さらに防御力そのものも高かった。



形態 固定
攻撃 精神攻撃



第8使徒
サンタルフォン

浅間山の火口内にて発見された際は成体前の状態であったが、捕獲作戦遂行時に羽化し、突如攻撃を仕掛けてきた使徒。羽化後は比較的魚類に近い形態を持つ。マグマを意に介さず、高速移動しての体当たりを主な攻撃方法とした。さらにマグマ内で口を開くことも可能であった。



形態 固定(羽化後変形)
攻撃 槍闘ほか



第16使徒
アルミサエル

輝く二重螺旋状の形態をした使徒。攻撃時は紐状の形態に変化し、対象に侵食(あるいは融合)を試みる特殊な使徒であった。また、侵食後はEVAとの生体融合を図ると共に、操縦者との一次的接触を試みるなど、他の使徒とは大きく異なる行動パターンを持つ使徒であった。



形態 不定形
攻撃 侵食、融合



第9使徒
アトリエル

半楕円体の本体に、蜘蛛のような4本の脚を持つ使徒。目のような部位から、強力な溶解液を流出させる。NERV本部が停電中に出現したため、出現時の活動分析は行なわれていない。不確かではあるが、パレットライフルにて打ち抜かれた目の奥にコアが存在したと思われる。



形態 固定
攻撃 溶解液ほか



第17使徒
サブリエル

フィフステルドレンの活カラルとしてNERV本部に送り込まれた使徒。使徒の中では唯一、完全な人型といえる形態を持っていた。その具体的な攻撃手段は不明だが、人として活動する術、言葉によるコミュニケーションを行なう知性だけでなく、EVAと同化し操縦する能力も有していた。



形態 固定(人型)
攻撃 不明



最後の使徒である第17使徒は、EVA式号機を外部から操ってセントラルドグマを降下。EVA式号機の油撃を受けながら、NERV本部に幽閉されていると考えられていたアダムの肉體を目指した。

2体の巨人の存在
「始祖とも言われる」

その存在の意味

人類の生命の源たるリリスと、使徒と呼ばれる生命の源たるアダム。それぞれがいかんして発生したかは知る由もない。ただ、第17使徒タブリスの「未来を与えられる生命体はひとつしか選ばれないんだ」という言葉からも分かる通り、リリスから生まれた人類とアダムから生まれた使徒という相容れない存在の戦いは、互いの行く末をかけた種の争いであつたともいえるだろう。

■ アダムという存在

葛城調査隊によって南極で発見され、セカンドインパクトを引き起こしたとされている光の巨人アダム。人類が初めて遭遇した未知の生命体であり、2015年以降、人類の前に姿を現した使徒と呼称される生命を生み出した「始祖」と言うべき存在とされている。なお、セカンドインパクトの発生によってその身体は失われてしまったが、後にその肉體は胎児のような姿で復元されている。



加持リョウジが「アダム」と呼称した、胎児のような生物。硬化ペークライトによって固められた状態でも生きているその生物は、アダムの肉體を復元したものと推測される。

■ リリスという存在

地球上の生命の始源であり、人類を生み出したとされる巨人。アダムとは対極の存在である。NERV本部の最深部、ターミナルドグマに隠匿されており、NERV上層部により、当初、その存在はアダムであると情報操作されていた。なお、ブラッドタイプが育であることや第2使徒の座が空白であったことから、このリリスが「第2使徒」と推測されていたようだが、「使徒」に該当しない可能性も否定できない。



ターミナルドグマに隠匿されたリリス。その胸部に突き立てられていたロンギヌスの槍が引き抜かれた際には、リリスの再生能力が驚くべき働きを再開。その下半身が瞬時に再生された。

EVA初号機は「リリスの分身」であるというキール。その言葉が真実ならば、初号機と人間の起源は同一ということになる。



キールたちが「黒き月」と呼称したリリスの卵。地球上の生命の始源とも言われるその物体は、第3新東京市直下に存在した。

/// 追加報告 ///

アダムとリリスの行方

使徒と呼称される生命を生み出したアダムは、復元された後にNERV 碓ヶ丘の元へ、人類を生み出したとされるリリスもまたNERVに幽閉されていたが、その肉體は分かれた魂である綾波レイとひとつになった。最後の使徒であるタブリスが倒れた後、アダムの肉體を取り込んだリリスにより、人類の補完が始まることとなる。



碓ヶ丘の右掌に移植されたアダムの肉體。碓ヶ丘はリリスとの禁じられた融合を目論むが、その行方はリリス＝綾波レイによって拒絶された。





第3新東京市立第壱中学校における通常の教室での授業風景
第3新東京市という特殊な都市にありながらも、少年少女たちにとっての「学校」はあくまでも日常の一部である

第3新東京市立第壱中学校

旧世代的な施設の裏に真の姿を隠した中学校

神奈川県足柄下郡箱根町を中心とした一地域。それが2005年以降、新たな首都となるべくして建設を開始された、第3新東京市の当該地であった。着工以前には芦ノ湖周辺に設けられた小さな町であったが、第3新東京市となるべく建設が進められるにつれ、その人口は増加の一途をたどることとなる。2015年、都市の中核的存在であったNERVが本格的な活動を始めていたにもかかわらず、第3新東京市は完成には至っていなかった。そのため、NERV関係者、また建設事業関係者は増え続け、その家族のための環境整備も急務であったことは想像に難くない。ただし、もとより同都市は「優れた都市」であることよりも「使徒撃退の拠点となる都市」であることを義務づけられていた。最終的に第3新東京市は「要塞都市」という特異な姿を成すが、その反面、家族のための環境整備は後回しにされた感が否めない。

家族のための環境整備という点に置いて、子供たちが通う学校もまた、後回しにされた感の強い施設であった。周辺地域への避難シェルター配備といっ

た危機管理面は考慮されていたが、学校という施設自体は第3新東京市着工以前の、旧世代的な姿のままであったと言っても過言ではないだろう。無論、独自の教育理念を掲げる私立の学校でもない限り、一般的な設備さえ整っていれば事足りる。しかし、EVAの操縦適格者が通っていた第3新東京市立第壱中学校ですら、表向きには、特殊な設備を整えていない一般的な中学校であったことは、都市計画としてそれを重要視していなかったことの証左といえよう。

ただし、第壱中学校が旧世代的な教育機関であったことは、意図的なものだったとも考えられる。なぜならば2年A組に集められた生徒は、人類補完委員会直属の諮問機関、マルドゥック機関が選出した適格者候補であったからだ。人類補完計画を円滑に遂行するために用意された、予備人員としての少年少女たち——。実際に予備人員としてEVAに搭乗することになったのは鈴原トウジのみだったが、そのクラスメイトは、等しく同じ運命をたどる可能性を秘めていたのである。中学校という日常生活の場に彼らを集めていた真意は定かではないが、適格者であることを隠し管理するための場所として利用されていたことは紛れもない事実である。



RELATED

- 適格者
- 第3新東京市



EVAの操縦適格者
チルトンと同義。人類補完委員会直属の諮問機関 マルドゥック機関により選出される少年少女。

●第壱中学校 主要施設概要

TOKYO-3 1st PUBLIC JUNIOR HIGH SCHOOL

第3新東京市は国連主導のもと、使徒の襲来に備えて最新技術の粋を集結して建設された。ただし、第壱中学校はその建設と運動してなかったと見られ、旧箱根町にあった中学校がその名称のみを変更したかのように、校舎を中心とした各施設に目新しい箇所は見受けられない。



第3新東京市の中学校とはいえ、その設備は一般的な中学校とさほど変わらない。生徒のいでも、一般的な学生服の範疇に収まっている。

1 校舎

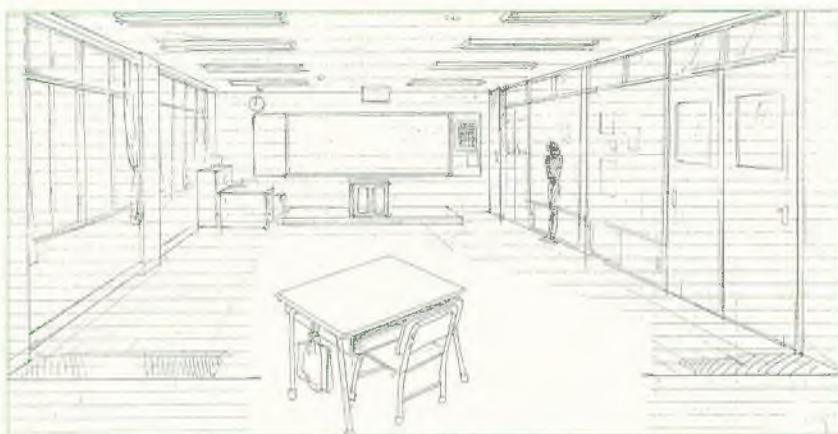
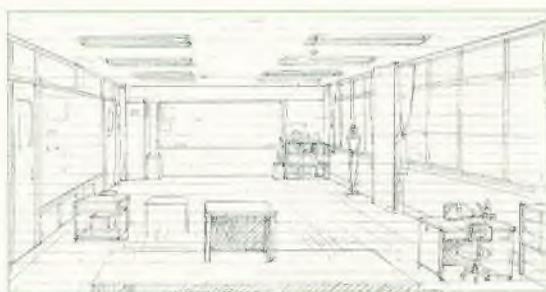
「普通の中学校」といった趣を持ち、外観、内装共に懐かしい雰囲気をかもし出している校舎。ちなみに校舎は2棟が平行に建てられており、渡り廊下で繋がれている。



ごく普通の放課後の風景。ちなみにアスカが手にしているものを見ても分かる通り、掃除用具も旧態依然としたモップなどが使われている。

■教室

教壇と黒板が用意され、35～40組程度の机と椅子が入るごく普通の教室。疎開が進んでからは、空席が目立つようになった。ちなみにパソコンなども導入されていたようだが、授業は黒板を用いて行なわれていたようだ。



■廊下

校舎自体が細長いため廊下もやや幅が狭くなっており、教室の向かい側、廊下の片面は中庭に面している。構造、建材などを見る限り年季が入っているようにも見受けられ、遷都計画が学校施設には及んでいなかったことを物語っている。

■屋上

第3新東京市を一望できる、眺めのいい屋上。そのため、ここで昼食をとる生徒も多いようだ。なお、屋上は常時開放されているようで、休憩時間や放課後、一部の生徒に憩いの場として活用されている。



2 体育館

屋内で体育を行なうほか、ホール、講堂など多目的に利用できる体育館。床にはフローリング材が用いられているなど、校舎と同様に懐かしい雰囲気をかもし出している施設である。



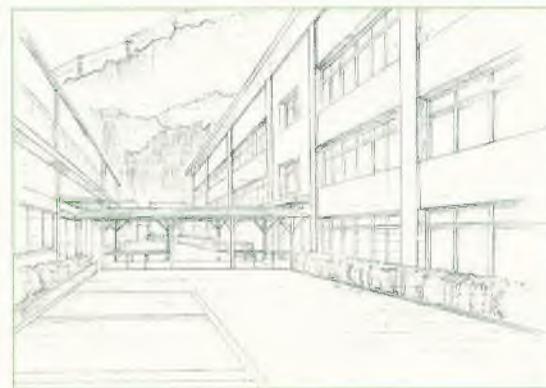
外観的に一般的な体育館との差異はない。室内にも特徴はなく、広さは正式なバスケットボールのコート一面が取れる程度である。

3 渡り廊下

2棟の校舎と体育館をそれぞれ繋ぐ渡り廊下。校舎間の通行の用途のみに供するものであるため、平屋建てとなっており、低めの壁はあるもののほぼ吹きさらしとなっている。



一般的な平屋建てとなっている理由は、建築基準法での取り決めが2015年においても有効であるためと思われる。



■体育館への渡り廊下

体育館への渡り廊下は2棟の校舎を繋ぐものと見た目はほぼ同じだが、作りはより簡素なものとなっている。

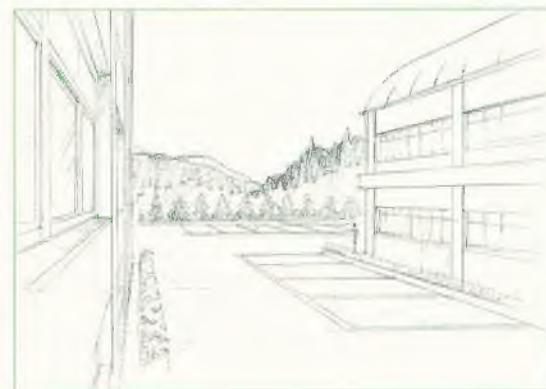


4 駐車場

職員、来客用の駐車スペース。数台分のスペースが敷地内の各所に配置されているが、生徒たちの目に留まる場所に車が停められていることは非常にまれである。



シンジの進路相談の際、保護者として中学校に足を運んだミサト。来客用駐車スペースに派手に乗りつけ注目を集めた。



■体育館脇の駐車場

駐車場と呼べる広いスペースが取れないためか、体育館脇の狭い場所にも駐車スペースが設けられている。



5 校庭

屋外運動場。立地条件が考慮され、校舎より一段低い場所にある。都市部の学校では地面にシーリング材を敷いている場合も多いが、第壱中学校は土の校庭である。



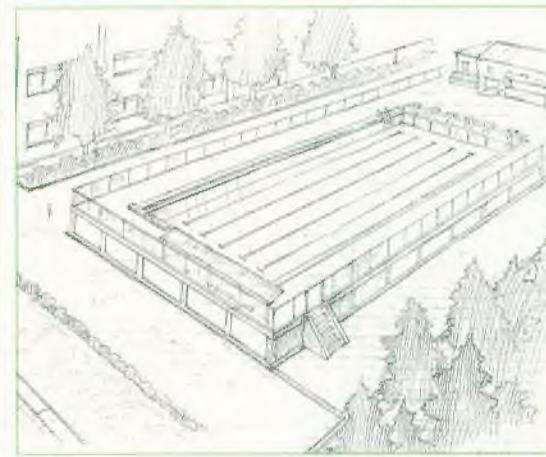
バスケットボールのゴールが設置されている校庭。3面分のコートを確認できる程度の広さがあったようだ。

6 プール

校舎の横に設置されている屋外スイミングプール。学校施設としてのプールは短水路(長さ25メートル)のものが一般的だが、第壱中学校のプールの全長は不明。



男女別で行なわれていた水泳の授業。気候を考慮し、体育のカリキュラムにおける水泳の比率は増えたものと思われる。



■プール全景

体育館と同程度の面積を持っていたプール。セカンドインパクトの影響によって常夏となった日本においては、プールを利用する頻度も多かったものと思われる。



適格者の補充を視野に入れ 意図的に集められた少年少女

第3使徒の襲来を受けて疎開する住民が多かったことは先に述べたが、これにより全校生徒の数およびクラスの数も大幅に減少したものと考えられる。しかし、NERVに所属する3名の適格者全員が2年A組の生徒となったことは偶然ではなく、その公務を配慮したうえで意図的に集めたと考えるのが妥当だろう。さらに、意図的に集められたのはこの3名だけではなく、後に2年A組の全生徒が「マルドゥック機関」によって選出された適格者候補だったことが明らかになる。その選出人数、選出基準など詳細は明らかにされていないものの、EVA3号機が日本に搬送された際、鈴原トウジが操縦適格者として選ばれたことも、その事実を裏付ける出来事だった。2年A組は適格者の速やかな補充を意図して編成された、非常に特殊なクラスであったといえるだろう。



新たな適格者が選出されたことを知り「マルドゥック機関からの報告は受けていない」と口にしたミサト。彼女も同機関の実態を把握していなかった。

「第4次選抜候補者はすべてあなたのクラスメイトだったのよ」というミサトの言葉からも、シンジのいた2-Aが特殊なクラスであったことが分かる。



特記事項

マルドゥック機関について

EVAの適格者となる子供を選出するために組織された、人類補完委員会直属の諮問機関とされるマルドゥック機関。108もの関連企業を持つ同機関だが、京都府に存在する外資系ケミカル会社「シャノンバイオ」を始めとする関連企業のほぼすべてがダミー会社であり、その組織の活動は不透明なものであった。

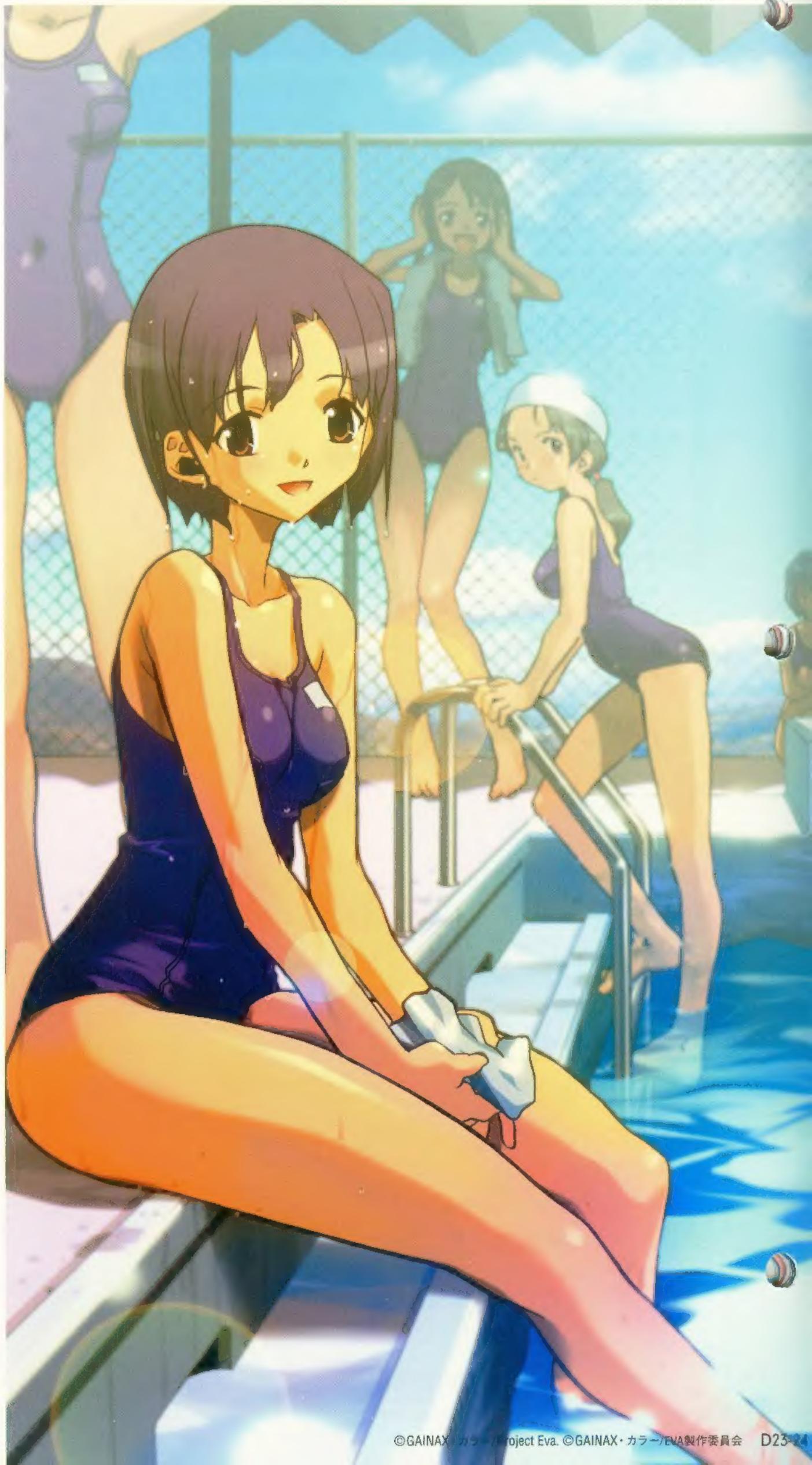
ちなみに「シャノンバイオ」の登記簿には、取締役として碓ゲンドウ、冬月コウゾウ、キール・ローレンツらが名を連ねていたという。表向きはマルドゥック機関によって適格者となる子供が管理、選出されるものと考えられているが、実際にはNERVの上層部（あるいは人類補完委員会）が適格者となる子供の管理、選出を行っていたものと思われる。



フォーステルドレンにはトウジが選出され、3号機の起動実験が行われた。実際に彼を3号機の操縦者として選出したのは、マルドゥック機関ではなく赤木リツコだった。



加持リョウジも「存在は名前だけで実体はない」というマルドゥック機関の実態に肉薄していた。その事実を認識していた者は、彼を含めたごくわずかだったと思われる。



光の柱

第3使徒サキエルや第14使徒ゼルエルの怪光線など、使徒により起こされた爆発には十字型の閃光が見られる。これは、形状や機能などすべて大きく異なる使徒たちの数少ない共通項のひとつであるが、何を意味するのかは不明。



「A.T.フィールドの意味」を知った惣流・アスカ・ラングレーのEVA式号機が活動を開始した際も、十字型の爆発が認められる。

光の槍

第3使徒サキエルが主に使用していた武器のひとつ。掌からバイルバンカーのように突き出される槍状のもの。国連軍の重戦闘機を撃墜するときなどに使用されていた。



EVA初号機との戦闘の際、サキエルは初号機の右眼をこの光の槍により貫き、大破させている。

非常召集

非常の際に人を緊急に呼び出すこと。使徒の襲来という非常事態の際、NERVスタッフに発せられる。特にエヴァンゲリオン操縦適格者は学校生活を普段おこなっているため、何らかの手段で緊急の召集命令が通達されるようだ。第4使徒シャムシエルが襲来した際、サードチルドレンに対してファーストチルドレンが口頭にて連絡している。



鈴原トウジに呼び出されたため碓シンジには非常召集が伝わっておらず、綾波レイが直接通達した。その直後、特別非常事態宣言の警報が鳴り響く。

非常制動用固体ロケット

空挺戦車のように、高所から降下する際に着地の衝撃を和

らげるための逆噴射ロケット。固体燃料を燃焼させたジェット噴射により急制動をかける。装甲を改修して再就役を果たしたEVA零号機が、両肩のパーツに内蔵していた。



第9使徒マトリエルの溶解液によって落下したパレットライフルを拾うため、縦穴を降下する際に使用。

非常電話

緊急通報用の電話回線。NERV本部内のエレベーターに設置されている。正、副、予備の電源すべてが落とされた第3新東京市及びジオフロントの停電の際は全く通じなかった。そのため、最低限電源を確保していないと作動しないと考えられる。



停電の際エレベーター内に閉じ込められた葛城ミサトと加持リョウジ。非常電話を試すが回線は繋がらなかった。

非常用ハッチ

エントリープラグに備わっている緊急時のハッチ。主に操縦者を外部から救助するためのものであり、内側からは開かない。EVA零号機のエントリープラグはエジェクションカバーがないため、非常の際の出口はこのハッチが重要となる。ヤシマ作戦の折、EVA初号機を庇って第5使徒ラミエルの加粒子砲を浴びた零号機は装甲が融解した。その際に同機のエントリープラグを取り出した碓シンジは、このハッチを開けて綾波レイの安否を気遣った。



扉のレバーを引き出し、人力で回すことによりハッチを開く。零号機の起動試験の際、碓ゲンドウはここを開けてレイを救助した。

非常用手動制御室(主)

J.A.の制御中枢。AUXILIARY CONTROL ROOM。背部バックパックの非常用ハッチより入室が可能。リアクターを制御できるコンソールが設置されており、操作にはカードキーでロックを解除する必要がある。その正面にはシリンダー状の手動制御装置が多数あり、人力でのリアクター停止も一

応は可能。試運転の際に制御不能に陥ったJ.A.を、直接的なプログラム消去によって停止させるために葛城ミサトが乗り込んだ。



天井はパイプやコード類で埋まっている狭い室内。制御不能となったJ.A.の中核部は高熱にさらされ、ミサトは放射能防護服を着用して作業を行なった。

非常用直通昇降機

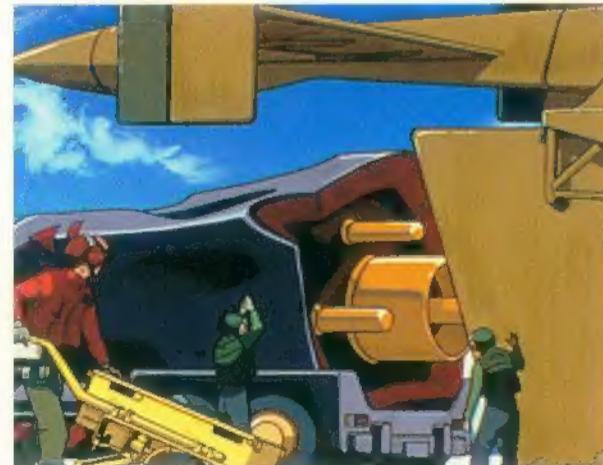
ケージなどの特定施設に直行できる専用エレベーター。非常事態の際、許可証を所持する人物だけが使える。稼働電源はメイン、サブ、リザーブの3系統が確保されている。R-20も参照。



戦略自衛隊がNERV本部に侵攻した際、碓シンジを第7ケージに送るために葛城ミサトが第6番入口からR-20を使用した。

非常用電源ソケット

EVAの非常用外部電源。EVAが第3新東京市外で活動する際に用いられる。海上での使徒襲来といった万一の事態に備え、Mil-55d輸送用ヘリコプターでEVA式号機を輸送中の太平洋艦隊へと届けられた。その際に用いられたケーブルは最低でも1,200m以上の長さを持ち、第6使徒ガギエルの殲滅にひと役買っている。なお、オーバー・ザ・レインボウの艦長は「おもちゃのソケット」とのたまり、葛城ミサトが提示したソケット関連書類へのサインを消していた。



ガギエルが襲来した際、原子力空母であるオーバー・ザ・レインボウのリアクターに直結させて式号機に電力を供給した。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ

非常用バッテリー

EVA専用の板状電池。アンピリカル・ケーブルによる電力供給ができない場合に、EVAの活動時間を延長する非常用の電源装備。これを装備した場合のEVAの稼働時間は不明だが、それほど長くはないと考えられる。パレットライフルのハードケースとほぼ同じサイズで、ジッパーのような止め具により肩部パーツに装着する。第3新東京市全体が停電し、外部からEVAへの電源供給が不可能になった際に用いられた。



装着した際にはパイロットランプが点灯する。また、蓄電された電力を使い切ったあとは分離して廃棄することが可能。

ヒデオ

第3新東京市立第志中学校の女生徒。合同体育で水泳の授業を受けていた。2年A組もしくは合同授業の組の生徒と思われる。



ブルーで泳ぎの競争でもしていたのか、「いけヒデオー」とはしゃぐ女生徒に応援されていた。

ヒト

第17使徒タブリス（渚カヲル）が言うところのリリン。リリスから生まれた18番目の使徒であるとされる人類を指した言葉であり、知恵の実を持つ存在であるという。古来より万物の霊長とされているが、生物学的には哺乳類サル目ヒト科に属する動物の一種でしかない。なお、赤木リツコは「アダムから神様に似せて人間を造った。それがEVA」と語っており、それを聞いた碓シンジの「ヒト、人間なんですか?」との問いかけに対し、「そう。人間なのよ。本来、魂のないEVAには、ヒトの魂が宿らせてあるもの」と答えている。

VTOL軽戦闘機

戦略自衛隊が保有する小型の戦闘機。機体の上部にはローブ状のアンテナ、下部には6本のセンサー、機首下部にはカメラも備えている哨戒に秀でた機体である。武装に単装機銃を持つ。



ひとり乗りの垂直離着陸機。NERV本部の施設へ歩兵部隊と共に侵入し、哨戒や対人掃討の役目を担っていた。

VTOL重戦闘機

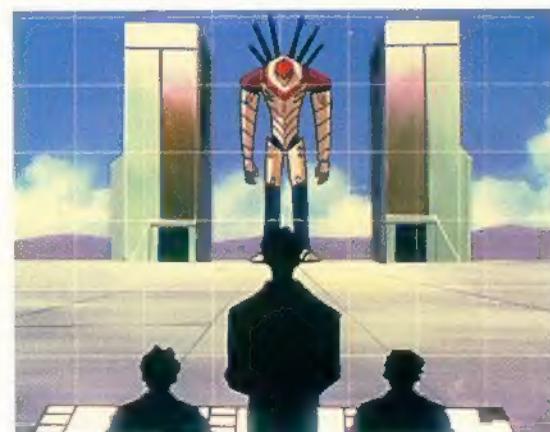
国連軍が制式採用している垂直離着陸機。VTOLはVertical Take-Off and Landingの略。滑走を必要としない離着陸を行なえることが大きな特徴で、機体左右の回転式ノズルにエンジンを持つ双発タイプである。ポピュラーな機体のようで、相田ケンスケはスケールモデルらしき立体物を所有していた。また、機体には戦略自衛隊仕様など複数のバリエーションがあり、碓ゲンドウなど要人の輸送に使用されるNERV仕様機の型番はUN-0876-32。なお、VTOL式の機体は積載能力や航続距離において同等の固定翼機に劣るため、採用は軍用機の一部に留まっているようだ。ちなみに、垂直離着陸が可能な機体でも、ヘリコプター等の回転翼機はVTOL機に含まない。



対使徒戦や要人の輸送など幅広い用途に運用される戦闘機で、武装にロケットポッドとガンポッドを持つ。

人の造りしもの

第七話のサブタイトル。人間の手により造り出された巨大人型自走兵器J.A.(ジェットアローン)を指す。このJ.A.は徹頭徹尾、人類の培ってきたテクノロジーで生み出されており、未知の存在のコピーであり人の手で造られたとは言いがたいEVAと、対照させる意味も持たされていると考えられる。なお、英文タイトル「A HUMAN WORK」もまた、「人間の製作物」を意味する。



「人の造りしもの」であるJ.A.は、結局のところ使徒への対抗手段とはなり得なかった。

昼メシ

第3新東京市立第志中学校の昼食は給食制ではなく、各生徒が弁当などを用意して学校に通う。学食の有無は不明だが購買部があり、鈴原トウジが毎日利用している。それをチェックしていた洞木ヒカ리는、密かに想う相手である彼のお弁当を作る約束を取りつけるものの、食べてもらう機会はなかったようだ。また、惣流・アスカ・ラングレーの昼食は、碓シンジが弁当を用意している模様。なお、葛城ミサトと赤木リツコの出会いは大学の学食であったようだ。



トウジの昼メシは購買部で買った大量の菓子パンやおにぎり。彼にとっても「学校最大の楽しみ」らしい。

日向マコト

NERV本部勤務の職員で階級は二尉。特務機関NERV中央作戦司令部作戦局第一課所属。発令所のオペレーターのひとりで、戦況分析やオペレート業務を担う。また、葛城ミサトの部下であり作戦立案などの補佐も行っているほか、彼女のクリーニング服の受け取りなど雑用もこなす。一見真面目でおとなしそうな青年であるが、第3新東京市大停電の折に第9使徒マトリエルが襲来した際、いち早く本部にその事実を知らせようとして偶然通りかかった選挙カーを徴収するなど、臨機応変の行動力を見せる。なお、上司であるミサトに対しては密かな恋心を抱いており、報われぬと知りながらも彼女個人の助けとして力を尽くし、危ない橋を何度となく渡っていたようだ。



人類補完の瞬間に日向が見たヴィジョンは、想い人であるミサトのものであった。その際は恐怖と喜びが入り交った複雑な表情を見せてL.C.L.と化する。